

## 1 学期終業式 学校長の話（2025 年 7 月 17 日）

- 皆さん、おはようございます。きょうで 1 学期が終わります。まずは、ここまでよくがんばりました。
- 1 年生のみなさん。4 月の入学から、もう 3 か月あまりがたちましたが、どうでしょうか。日常の様子を見ていると、北稜の生活にもずいぶん慣れてきたな、と感じています。最初は緊張していた人も、今は友だちと笑顔で話している姿が増えました。
- 2 年生のみなさん。今年度前半は行事が続きましたね。万博への校外学習、そして劇団四季のミュージカル鑑賞。大勢で動くときのマナー、時間を守る力、相手を思いやる態度。大変すばらしいなあいつも思っています。
- 3 年生のみなさん。修学旅行という大きな行事を、無事こなすことができました。また、ふだんの学校生活でも下級生をよく支えてくれています。普段のあいさつや、学校での生活で自然に動ける姿を見るたびに、「さすが 3 年生、頼もしいなあ」と私はいつも感心しています。
- どの学年にもそれぞれのカラーがあります。私はその一人ひとりに会える北稜中学校が本当に好きで、毎朝「きょうも行くのが楽しみだ」と思いながら学校に来ています。
- ここで、みなさんに質問です。4 月、最初の全校朝礼で私がどんな話をしたか、覚えていますか？ 私は、こう言いました。「明日も来なくなる学校つくりましょう」。そのために大切にしてほしいことを 2 つ、お願いしました。人と人との温かいぬくもりを大切にすること。『生き抜く』よりも、みんなで助け合い『生き合う』ことを大事にすること。
- あれから約 3 か月半。実際どうだったでしょうか。私は今も、毎日学校に来るのが楽しみです。つまり私にとって北稜は「明日も来なくなる学校」です。では、みなさんにとってはどうですか？ 自分は「明日も来たい」と思っていますか？ クラスの友だちは？ 部活動では？
- もしかすると「実はちょっとしんどい」、「もう明日行きたくない」と、嫌な思いをしている人がいるかもしれません。4 月にお話した「ぬくもり」と「生き合う」は、そのまま「自分と、隣にいる人を大切にすること」ということにつながっています。
- ぬくもりとは、となりにいる人の命と気持ちに手をあてることです。朝のあいさつ、困っていそうな友だちへの「大丈夫？」、という声かけ。ちいさな行動の一つひとつが、相手を雑に扱わないというサインになります。
- そして「生き合う」。自分だけ助かればいい、勝てばいい、ではなく、困っている人に気づいたら支え合って前に進むことです。北稜が「明日も来なくなる学校」になるかどうかは、この“気づいて支え合う力”にかかっています。
- 明日から夏休みです。学校という大きな見守りから少し離れます。だからこそ、自分の命をたいせつに、友だちの命も大切に過ごしてください。2 学期、また皆さんと「明日も来なくなる北稜」で会いましょう。